



## カンガル - のお腹にはなぜふくろがあるの

### ふくろの中で赤ちゃんを育てる

カンガルーの赤ちゃんが、どのようにして生まれるのかは、長いあいだ分かりませんでした。カンガルーの生まれる様子がはじめて分かったのは、1959年のことです。生まれたばかりの赤ちゃんはとても小さく、体長はわずか2センチメートル、体重は0.9グラムです。生まれた赤ちゃんは、まだ、まるはだかで目もあいていませんが、自分の力でお母さんのふくろのほうによじのぼり、ふくろに入ります。ふくろに入るとすぐに乳首をくわえて、お乳を吸い始めます。お母さんのふくろは、子育てのためのふくろでした。赤ちゃんは、こうしてふくろの中で8か月間乳で育ちます。ふくろから出てくるときは、体重は4.5キログラムにまで育っています。

### ふくろで子育てする動物（有袋類）

カンガルーのように、めすのお腹に子育てのふくろがある動物を有袋類といいます。オーストラリア大陸にすむほ乳類は、ほとんどすべてこの有袋類です。コアラ、オポッサム、フクロネズミなどがいます。南アメリカにも原始的な有袋類がいます。オーストラリアの有袋類は、ほかの大陸と海でへだてられ、動物が行き来できなくなったため、独特の進化をしたものです。（監修・今泉 忠明）

